

→ 旅するタコツボ

南区

なかむらまち

中村町遺跡

南区野間三丁目で、昨夏に中村町遺跡の発掘調査が行われました。調査では、弥生時代から古代にかけての古い川の跡が発見されました。

中村町遺跡は標高12m程度の丘陵^{きゅうりょう}周辺に広がる遺跡で、どちらかという内陸部に位置しています。川の中や川岸からは、「水」に感謝し、更なる豊穡^{ほうじょう}を祈って奉^{ささ}げられた多数の土器が出土しました。

その中にはこの周辺では珍しい土器が含まれていました。「タコツボ」です。4～5世紀に使用された漁労具で、主に沿岸に生息する小型のタコ^{いか}「飯蛸」^{いいたこ}を採るための土器です。海岸から離れたこの場所になぜ持ち込まれたのでしょうか。もしかしたら、海から引きあげられ中に入っていたタコと一緒に^{こうえきひん}交易品として持ち込まれたのかもしれない。土器は「黙して語らず」ですが、その背景には色々なドラマが隠されているのかもしれない。



出土品の中にタコツボが…



今宿遺跡出土のタコツボ

→ 2・3月のイベント情報

2月

- 17日 埋蔵文化財センター速報講座 第1回
「甕^{よみがえ}出土遺物－平成28年度保存処理成果から」
講師：埋蔵文化財センター職員
- 18日 県指定無形民俗文化財 今津人形芝居 定期公演
場所：西区西都2-1-1 さいとぴあ

3月

- 1日 県指定無形民俗文化財 飯盛神社^{いもりじんじや}かゆ占^{うら}
場所：西区大字飯盛609番地 飯盛神社
- 17日 埋蔵文化財センター速報講座 第2回
「発掘調査総まとめ－平成29年度市域内調査から」
講師：埋蔵文化財課職員

「飯盛神社 かゆ占」(県指定無形民俗文化財)

こしょうがつ かゆ そな
小正月の朝、神前に粥を供えて、半月後に表面に生えたカビの状態によってその年の豊作の吉凶を占う行事です。粥開きの朝はその結果を見ようと、近隣の農家からのたくさんの参詣者でにぎわいます。

福岡市経済観光文化局文化財部

住所：福岡市中央区天神1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理に関すること

文化財保護課 TEL:092-711-4666

史跡整備に関すること

史跡整備活用課 TEL:092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL:092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター TEL:092-571-2921

ホームページ「福岡市の文化財」

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中!



歴史の風 ふくおか文化財だより

Vol.13 2018年2月号

やよいの風公園で「新春たこあげ大会」を開催!



凧づくり作業のようす

去る1月20日、国史跡吉武高木遺跡「やよいの風公園」で「新春たこあげ大会」が開催されました。

この催しは、地元の国史跡吉武高木遺跡保存会が主催するもので、小・中学生を対象に凧作りと凧揚げを楽しんでもらうイベントです。

前日(19日)は、金武公民館で凧作りの準備作業。凧は竹ひごを十字に組み合わせてビニールを張るシンプルなものですが、数が多く準備に時間がかかりました。

大会当日は天候にも恵まれ、100名の参加者が凧揚げを楽しみました。まずは金武公民館で凧作り。地域の方を講師に迎え、みんなで凧を手作りします。その後やよいの風公園に移動して、いよいよ凧揚げ開始!多くの凧が冬の青空を背に泳いでいました。



大空に舞う凧

→ 博多息浜を知っていますか？

～忘れられた中世博多の繁華街～

中世都市博多の基盤となった砂丘の地形が、ヒョウタン状を成していたことはご存じの方もあるかも知れません。現在の御供所通りを海に向かって歩くと、呉服町辺りで感じる地面の高低差はヒョウタンのくびれ部分、かつての入海の痕跡です。

中世にはヒョウタン状の2つの砂丘の高まりの上に、それぞれ町が営まれました。内陸部を通称博多浜と呼ぶのに対し、沿岸部は息浜（澳浜）と呼ばれました。同じ博多でも2つの繁華街には別々の領主が存在し、息浜は南北朝時代から戦国時代の末に至るまで、ほぼ一貫して豊後（現在の大分県）の大友氏が支配しました。室町時代の息浜は戸数6000を数え、妙楽寺や東長寺といった大規模な寺院が存在しました。また港町として繁栄する息浜の商人の中には、朝鮮や明との貿易に従事する者も現れました。

しかしながら、江戸時代以降の博多の発展の結果、博多浜・息浜の2つの地区の区別は失われ、息浜という地名も徐々に忘れられてしまいます。現在では沖濱稻荷神社（古門戸町）・沖濱恵比須神社（下呉服町）等の名称から、この地区のかつての繁栄を偲ぶほかありません。



息浜の地形図（海岸は16世紀の推定線）

→ 保存処理成果展

「甦る出土遺物」を開催します！

～埋蔵文化財センターだより～

埋蔵文化財センターでは、2月6日（火）より、発掘調査で出土した木製品や金属製品の保存処理の成果



弥生時代の割り貫き容器

を公開する企画展示「甦る出土遺物」を開催します。保存処理と

は、出土品の傷みの

状況を検査し、劣化の進行を防ぐ処置のことです。今回は平成28年度に保存処理を実施した資料のなかから重要なものを取り上げ、弥生時代の木製品や青銅製品などを展示します。なかでも注目は、九州大学伊都キャンパス内の発掘調査で出土した木製品です。弥生時代の農具や杓子の他、木を削り抜いて作られた箱形の



鳥形木製品などの祭祀関係遺物

容器、お祀りに使用されたと考えられる鳥形の木製品など、多種にわたります。当時の人々の技術や造形を是非ご覧ください。

また、2月17日（土）には、保存処理作業の担当者が成果を報告する速報講座も開催します。受講料無料、事前申込不要ですので、お気軽にお越しください。

福岡市埋蔵文化財センターの最新情報はこちら ↓
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>

→ 中国式の石塔見つかる！

東区 箱崎遺跡 ～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

昨夏に実施した箱崎遺跡の発掘調査で、「薩摩塔」と呼ばれる鎌倉時代の石塔の破片が出土しました。「薩摩塔」は木造の塔や須弥壇をモデルとした石造りの仏塔で、四天王像などが彫られています。最初に鹿児島県で確認されたことから薩摩塔と呼ばれるようになりましたが、その後の研究により、福岡市周辺にも存在することが明らかとなり、現在では北部九州を中心に40例ほどが知られています。

薩摩塔の形や仏像の姿は中国風で、中国の浙江省の石材でできているので、中国南部で製作されたと考えられています。当時、箱崎や博多では中国との貿易が盛んに行われており、この薩摩塔は貿易に関係していた中国商人が持ち込んだものと考えられます。今回発見された薩摩塔は、13世紀に捨てられたことがわかりました。薩摩塔が使われた時代を知る上で、貴重な発見となりました。

なお、福岡市博物館で開催中の企画展示「ふくおか発掘図鑑 8」で、4月1日まで実物を展示しております。ぜひご来場ください！



出土した薩摩塔



志賀島火焔塚にある薩摩塔